

こんなジョークがあります。世界中の人々を乗せた豪華客船が沈みそうになった。乗客を海に飛び込ませるにはどうしたらよいか。ドイツ人には「規則ですので飛び込んでください」と言う。アメリカ人には「今、飛び込んだらヒーローになれますよ」と言う。日本人には「みなさんが飛び込んでいますよ」と言う。国によって価値観に違いがありますね。同じ国でもまた地域によっても違いがあります。関東と関西にも違いがあります。関西特にひと昔前の大阪のあいさつが「儲かりまっか」で答えが「ぼちぼちでんな」と商売的、実利的話になるのに比べて、東京では理念や目的に重きが置かれます。何か行動する時も関西はおもしろいか、受けるかが気になりますし、関東は何のためにこれをするのかが気になります。それは聖書を読む時も関心が向くものに違いが出ます。現代人は聖書が毎日の生活、人との関わり、仕事にどう役立つかという観点から読まれることが多いように思います。益をもたらすのか、もたらさないのか？何か得になるかならないか。何も益するものをもたらさないのであれば時間の無駄というように考える人は多くいます。

もし、聖書を「生活にすぐに役立つ」ということだけで読むなら、「復活」などという主題は正しく理解することができないでしょう。大切だとは分かっているけれども、それが日常生活でどのような意味を持っているのかそれが分からないという人が多いと思います。しかしよくよく考えてみるなら、「復活」それは、私たちが何をどうすべきか、どう生きるべきかということ以上に、何が私たちを生かすのかということを知っているのです。何をするか、どう生きるか考える前に、そもそも私たちを生かす、いのちがどこから来るのかを知っていなければなりません。ですから聖書は、それが役に立つかどうかだけでなく、人間にとって最も根本的な問題の解決を示すものとして私たちは読んでいく必要があります。聖書によって、そうした根本的な問題の解決を与えられてこそ、聖書が、私たちの人生を支え、潤し、満たすのに大いに役立つものとなるのです。

イエス・キリストは十字架によって死なれ、3日目に復活されました。イエス・キリストの十字架と復活という、受難からイースターの朝の三日間に起こった出来事が、私たちに罪の赦しを与えます。ローマ4:25に「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです」とある通りです。イエス・キリストが私の罪のために十字架で死なれ、救うために復活してくださったと信じる者に救いがやってきます。アウグスティヌスは「私たちはイースター・ピープルで、ハレルヤがその歌である」と言いました。「イースター・ピープル」クリスチャンとは、どんな人？という問いかけに、クリスチャンとはキリストの復活を信じ、それをたたえてハレルヤを歌う人々なのです。きょうの箇所には、キリストの復活は、キリストおひとりの復活だけでなく、キリストの復活を信じる者たちの復活がその後続くことを教えています。

23節に「しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト」とあるように、キリストの復活は「初穂」です。「初穂」というのは、穀物の収穫のとき、神に献げるために最初に刈り取ったものを指します。日本では秋に稲の刈り取りのとき、熟した稲穂が神々に捧げられますが、ユダヤの国では、春の大麥の収穫のとき、その初穂が神に捧げられます。この「初穂の祭り」は、過越の祭りのあとに行われます。過越の「小羊」がキリストとその死、身代わりの死を示しているように、「初穂」はキリストとその復活を表わしているのです。

「初穂」のあとに大きな収穫があるように、キリストの復活のあとにキリストを信じる者の復活が続きます。その復活は、まずは、霊の復活です。山で切られた木は枝を削られ、川に流され、製材所に運ばれていきます。命のない丸太はあっちにゴロン、こっちにゴロン、水の流れに流されるままです。同じように、罪の中に生き、神に対して死んだ状態の人は、この世の流れに流されるままです。しかし、魚は小さ

くても、命がありますから、川の流に逆らっても、自由に泳ぐことができます。神は、丸太のようだった者に、キリストの復活によっていのちを与え、罪から解放されて、自由に生きることができる者にしてくださいました。これが霊の復活です。エペソ 2:4-6 に「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださいましたその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました」とある通りです。

キリストの復活は、また、私たちをからだの復活に導きます。23-26 節を読みます。

「しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。最後の敵である死も滅ぼされます。」

ここには、キリストの救いが3段階で完成することが書かれています。第1段階は、今から2千年前、イエス・キリストがこの世に来られた時に起こりました。キリストの十字架と復活によって、私たちの救いは成就しました。信じる者は罪の赦しを受け、霊的に生まれ変わります。第2段階は、イエス・キリストが来られてから世の終わりまで、あるいは、人がイエス・キリストを信じてから世を去るまでの時です。この期間、信じる者は罪の力から守られ、与えられた霊的な命を成長させていきます。救いが成長するのです。そして、第3段階は、世の終わりに、イエス・キリストがもういちど、この世においでになる時に起こります。この時、信じる者は、罪の存在そのものから救われます。罪のないところに死もありませんから、このとき、人は死に勝利し、救いが完成するのです。

信じる者は、すでに、永遠のいのちを受け、死の恐れから解放されています。信じる者にとって死は地上から天への通過点にすぎません。しかし、死ねば、そのからだは朽ちていきます。愛する人々とずっといっしょにいたいと思っても、そこにいることはできません。遺された者も、いままでいっしょに暮らしていた人がもうそこにはいないという悲しみに突き落とされます。亡くなった人は天で、もっと素晴らしい礼拝をささげているのでしょうが、今までいっしょに礼拝をささげてきた私たちは、その人が、いつも座っていた席にいないことに寂しさを覚えます。人間は様々なものを克服してきました。しかし、死だけは、どんなにしても克服できませんでした。死んだ人のからだは灰となり、土に戻ります。死は、最後にあらゆるものを滅ぼす力を持っています。しかし、キリストはその死を滅ぼされます。どのようにしてでしょうか。キリストが再び世に来られるとき、信じる者、聖書では「キリストに属している者」に、ご自分と同じ復活のからだを与えることによってです。

キリストの復活からすでに二千年たっていますが、キリストの再臨はまだです。神はひとりでも多くの人がキリストを知り、信じるようにと待っておられるからです。しかし、時が満ちれば、キリストは必ず来られます。そのとき、すでに霊の復活を体験し、「キリストに属する者」となっている者は、そのからだも復活するのです。死ぬことのないからだを受け、死に勝利するのです。

23 節に「まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です」とあるように、復活の順序からいえば、キリストに属する者は、キリストについて二番目です。一番目であるキリストはすでに復活されたのですから、二番目である私たちの復活も近いのです。飛行機に乗るとき、セキュリティ・チェックのため、長い列に並ばなければなりません。飛行機に間に合うのだろうか心配になるときもあります。そんなとき、自分の何人か前の人々がチェックポイントに進むのを見て、「もうすぐ自分の番だ」と思い、ホッとします。それと同時に、もうすこしの我慢だと自分に言い聞かせます。そのよ

うに、私たちの前に立っておられるキリストが復活されたからには、次は、自分の番だと、自分に言い聞かせましょう。霊の復活をいただいた者はかならず、からだの復活にもあずかります。まず、信仰とバプテスマによって「キリストに属する者」となりましょう。「キリストに属する者」はキリストのからだである教会にも属します。教会生活を守ることによって、キリストに属し続け、それを確認しながら、救いが完成するとき、幸いな復活にあずかる日を待ち望みたいと思います。

キリスト者はこの世における信仰の旅路を終えて、召された方のことを思う時、確かに寂しいですがしかし安心して見送ることが出来ます。そして安心して「また天国でお会いしましょう」ということが出来るのです。ただ順番が違うだけです。私たちは明日はどうなるか分からない中をやみくもに歩んでいるわけではありません。自分の身体も含めて目に見えるものは滅んでゆきます。消えてゆきます。しかし、復活信仰に生きる者はまったく新しいからによみがえる希望に生きているのです。私たちの日常の中に復活信仰を落とし込み、染み渡らせてゆきましょう。